

	<h1>ロタウイルスワクチン</h1>	やまもとクリニック
		第1巻 第1号 2012・7・25

ロタウイルス感染症

乳幼児の急性下痢症の最も主要な原因がロタウイルスによる感染症です。秋から年末にかけてはノロウイルスが、1月から4月にかけてはロタウイルスが主に流行します。

生後6ヶ月から2歳の乳幼児に多くみられ、5歳までにほとんどの小児が経験します。米のとぎ汁のような白色の下痢便が特徴で、そのため白痢あるいは仮性小児コレラとも言われていました。

主な症状は嘔吐と下痢ですが、ノロウイルスよりも発熱を伴う場合が多く、重症度が高いとされています。通常1歳を中心に流行がみられますが、保育所、幼稚園、小学校などの小児で集団発生がみられることがあります。

ロタウイルスワクチン（経口ワクチン）

現在、世界ではロタウイルス感染症を予防するワクチンとして、1価の**ロタリックス**、5価の**ロタテック**の2種類があります。いずれも生ワクチンです。今のところ両方のワクチンともにほぼ同じ良い効果を示しています。

接種時期と接種回数

生後6週から接種できますが、ほかのワクチンとの同時接種を考えて、生後2か月からが最適です。ロタリックス（1価ワクチン）は**2回**、ロタテック（5価ワクチン）は**3回**接種します。どちらも接種できる期間が決められていて、これがほかのワクチンと異なる点です。これは、腸重積症（腸閉塞の一種）が起こりにくい低い年齢で接種するのが目的です。ロタリックスは4週間隔で2回接種します。遅くとも生後20週（140日）までに1回目、生後24週（168日）までに接種を完了します。生後24週以降は接種することができません。ロタテックは4週間隔で3回接種します。遅くとも生後24週（168日）までに1回目、そして3回目は生後32週（224日）までに接種を完了します。生後32週以降は接種することができません。**生後2か月になったらすぐにヒブ、小児用肺炎球菌、などと同時接種で受けることをおすすめします**